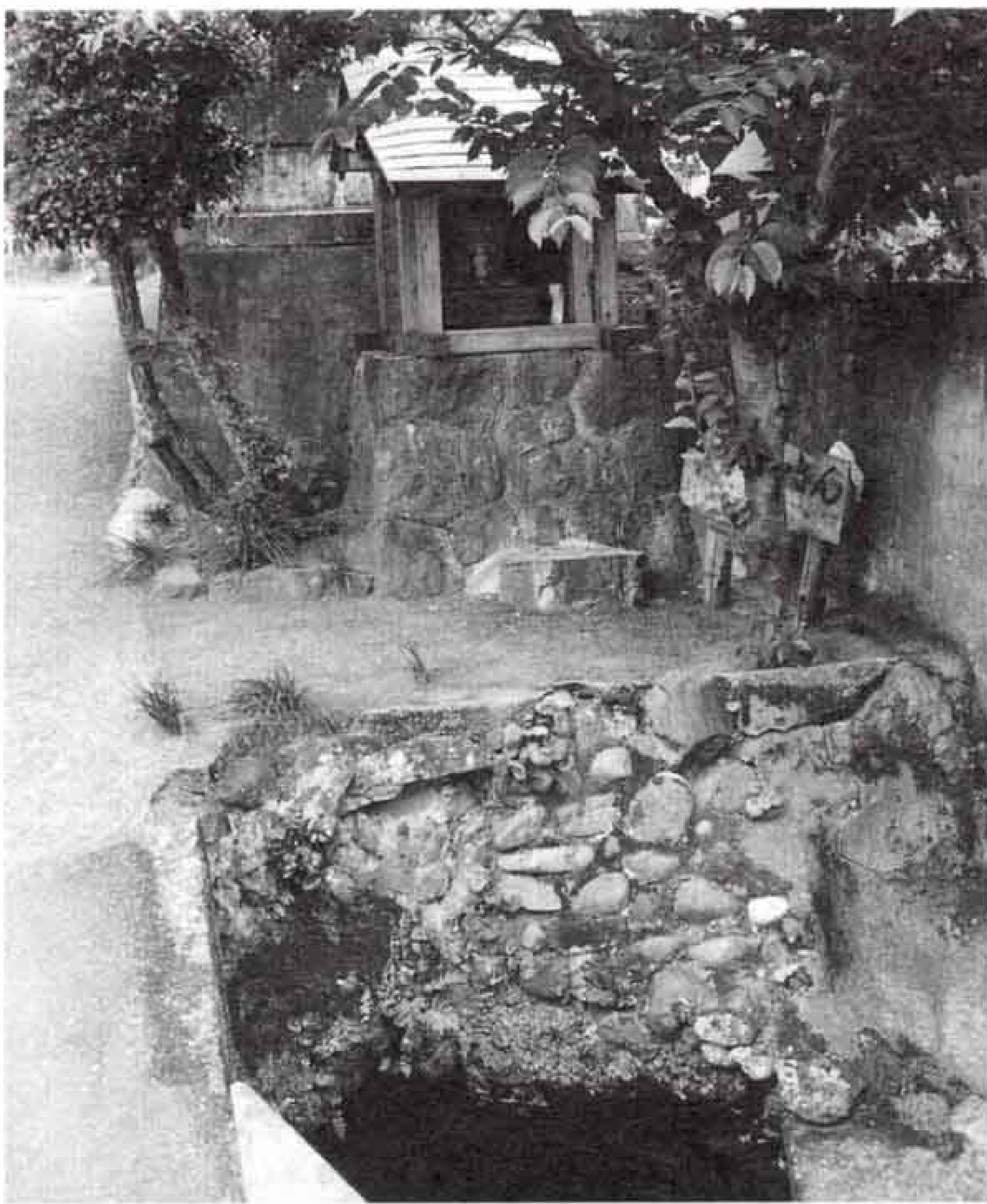


富士の民話 あれこれ

江尾の

おしゃもっさん

江尾地区に「おしゃもっさん」と呼ばれる小さなほこらがあります。これは昔、水田の広さをはかる道具を祭ったものと言われています。今回は、この「おしゃもっさん」についてご紹介します。

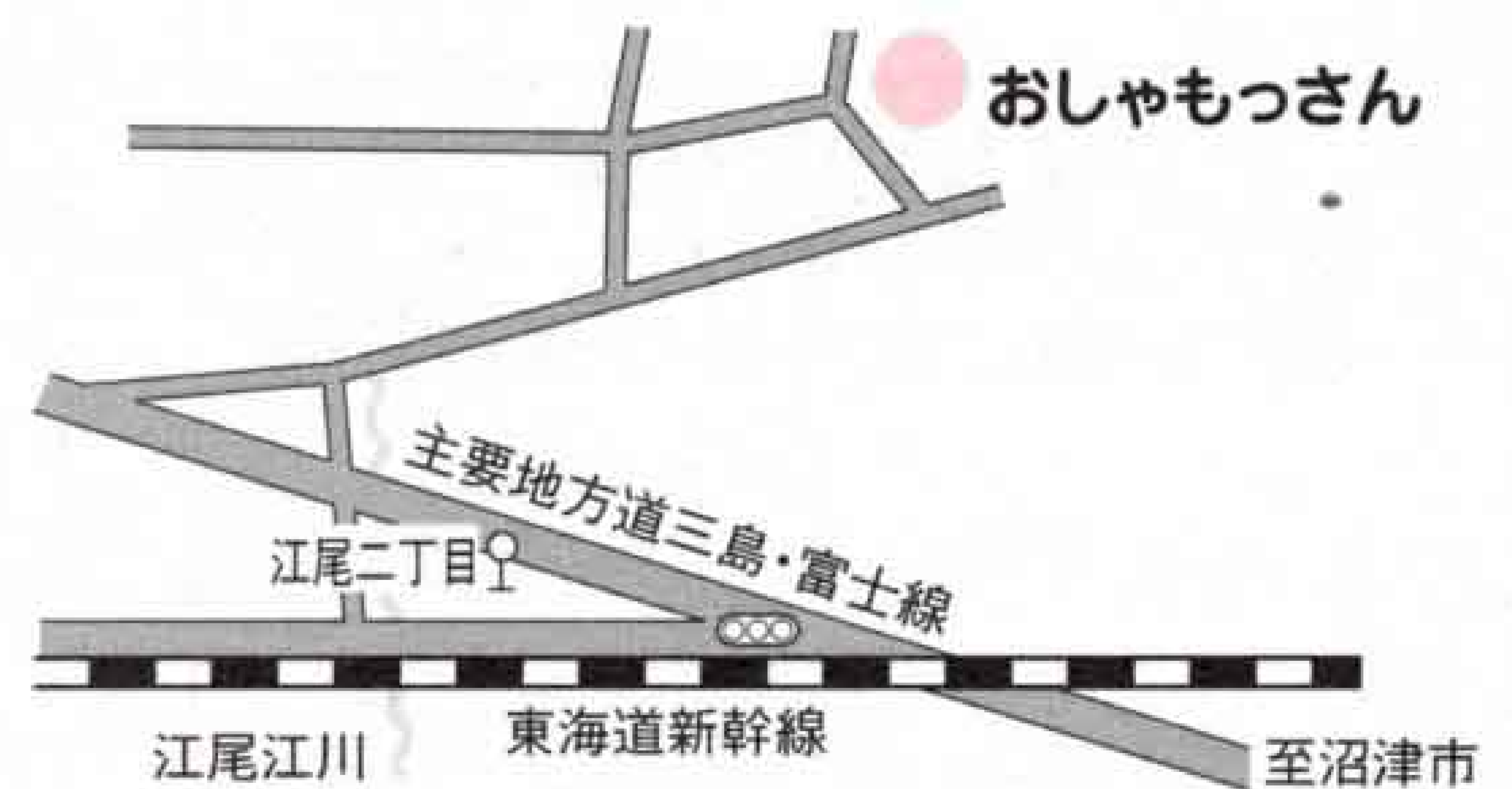


▲「おしゃもっさん」を祭るほこら

「おしゃもっさん」とは、おしゃもちさんがなまったもので、その語源は「お尺持ち」と言われています。「お尺」とは、昔、年貢を取り立てるために土地を検地（測量）したときに使った間竿や間縄のことで、このお尺を持つていた人をお尺持ちと呼んでいたと思われます。

江戸時代の検地は、それは厳しいものでした。間竿や間縄を使って水田の広さをはかることを竿入れ、縄入れと言いました。検地のための役人が村の役人を使って、厳重な検地を行いました。少しでも調査を受けずに隠している水田があると、重い罰を受けました。また、はかり間違いがあつたりすると、首を切られたりすることもありました。それほど検地が厳しかったので、村では「お尺」をとっても大切にし、いつしか祭るようになったと思われます。

昔はこうしたほこらが村それぞれにあつたようですが、今ではほとんどなくなりました。しかし、江尾のおしゃもっさんは今もなお大切に祭られています。そのほこらの下からはきれいな水がこんこんとわき出ていて、ハヤなどの小魚が泳ぎ、近くに住む人々から親しまれています。



「おしゃもっさん」は代々うちで祭っています。祭ると家が栄えると我が家では言い伝えられています。敷地の入り口にあるので家の玄関として祭っているんですよ。ほこらの下からは今もきれいな水がわき出ています。二十年ぐらい前まではみんなこのわき水を家に引いて生活していました。今のほこらは、妙蓮寺さんにおはらいをしてもらって平成八年に建てかえたものです。毎朝、ろうそくに火をともし、わき水をお供えています。私の習慣のようなものですよ。また、毎月一日と十五日に塩と米とシバを供えています。妻もいつも掃除をしてくれます。子供や孫にもずっと引き継いで「おしゃもっさん」を祭ってほしいですね。

※シバ：雑木の小枝

おしゃもっさんを
今も大切に祭る

栗田 郁男さん
(江尾)



こちら編集室

皆さん夏休みの予定は立てましたか？子供たちには今回の特集で取り上げた施設や行事などを参考に、楽しい夏休みを有意義に過ごしてほしいものです。

私は、ことしも家族で海に行こうと計画しています(1泊2日)。昨年は予定をしていた日が雨とな

り、私の立てた完璧なまでの旅行のシナリオが雨音と一緒に消えてしまい、とても残念な思いをしました。

晴れの日予約はできませんが、ことしはいい天気家族サービスができるようにと、今からおてんとうさまに祈っています。(雨パパ)

人口 237,870人 (前月比+108)
男 118,459人 (+42)
女 119,411人 (+66)
世帯 78,652世帯 (+110) 6月1日現在
編集・発行 富士市総務部広報広聴課
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100 ☎51-0123

